

ふじのみや探検

第7号 大宮城のひみつ

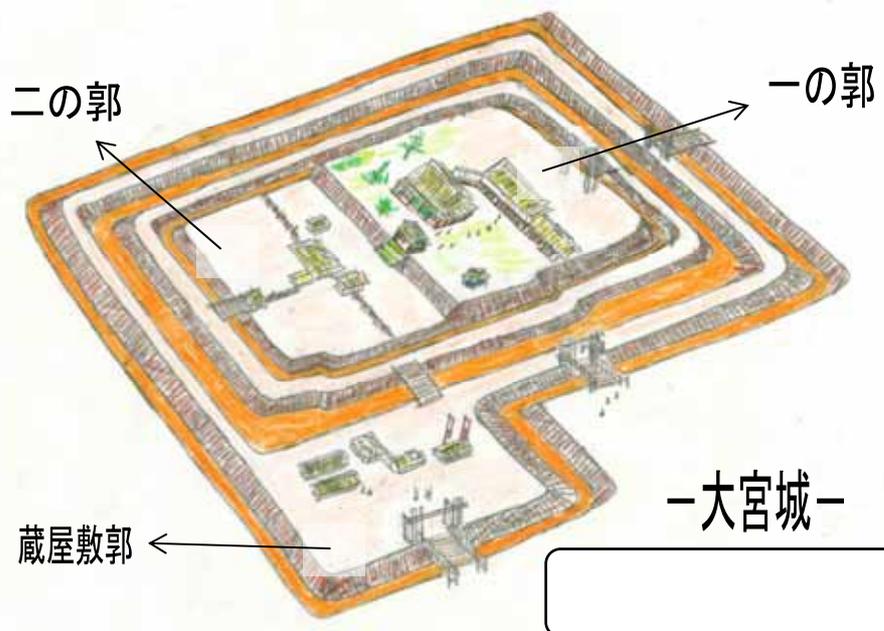


発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町 13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1 大宮城はだれが作ったの？

富士宮市には、お城が7つあります。1. 大宮城 2. 稲子城 3. 白鳥山城 4. 南条館 5. 葛谷城 6. 高原城 7. 井出館です。今回は、大宮城について考えてみましょう。

ところで、皆さんがイメージするお城はどんな形をしていますか？ 姫路城や松本城のように高い天守閣があり、天にそびえたっていますか？ これらのお城は、江戸時代にたてられました。ですから国じゅうからよく見えるように高くりっぱなお城を作りました。しかし、大宮城はそうではありません。江戸時代の前、戦国時代のお城です。戦国時代は、日本中で戦いがあったので、たくさんのお城が作られました。静岡県だけで



も700のお城があります。そのほとんどが戦国時代のお城です。敵に攻められても少ない人数で守れるようにお城を作りました。では、大宮城の中は、どうなっているのでしょうか、ちょっとのぞいて見ましょう。

まず、お城のまわりは、堀で囲まれています。堀には水は入っていません。こういう堀を空堀といいます。堀をほった土で周りに高く、土塁を築きます。大宮城に攻めてきた敵は、堀の下に来ます。それを土塁の上から鉄砲や弓で攻撃します。堀には、木の橋がかけられていますが、敵が来るとはずします。お城の内部は、3つに分かれています。一の郭・二の郭・蔵屋敷郭です。1つの郭が破られても、次の郭に退いて戦うことができます。このような工夫をすることで、少ない人数でも大宮城を敵から守ることができます。おや、一の郭からお殿様が出てきました。富士信忠です。大宮城は、富士氏が作ったのですね。

ことばの説明

戦国時代・・・応仁の乱(1467)から室町幕府が滅亡(1573)した百年間をさす。

堀・・・敵が攻めてくるのを防ぐために掘ったみぞ

土塁・・・敵が攻めてくるのを防ぐために作られた土盛り、堀をほった土を盛る

郭・・・堀や土塁で守られた城の平らなところ、建物がたち、人々が生活する場所

富士信忠・・・大宮城の城主、浅間大社の大宮司(神社で一番えらい人)でもある。

ひみつ2

大宮城はどこにあったの？

神田川の東、今の大宮小学校にありました。一の郭は、運動場・二の郭は、校舎・蔵屋敷郭は、長屋門から蔵屋敷神社のあたりにありました。なぜ、ここに大宮城があったとわかったのでしょうか。古文書で大宮城が大宮小のあたりにあったらしいとは、わかっています。でも本当にわかったのは、このあたりを発掘したからです。ほってみると、7世紀の古墳時代の家・富士氏の館・大宮城など何層にも分かれて出てきました。大宮城とよばれたころの堀や土塁のあと、井戸や建物のあとなどもわかってきました。

今の二中の横、城山公園のあたりにも堀や土塁のあとがあります。富士氏は、ここにも砦をかまえ、大宮城と連携して、武田軍の侵入を防いだのでしょうか。

ことばの説明

古文書・・・昔の人が書きのこした記録

古墳時代・・・日本に古墳(おもに前方後円墳)が作られた時代。3世紀半ばから7世紀末までの四百年間をいう。

富士氏の館・・・富士氏が住んでいる家でもあり、政治を行った場所でもある。

砦・・・軍事目的のために作られた小さくて、かんたんな城



大宮城のまわり

ひみつ3

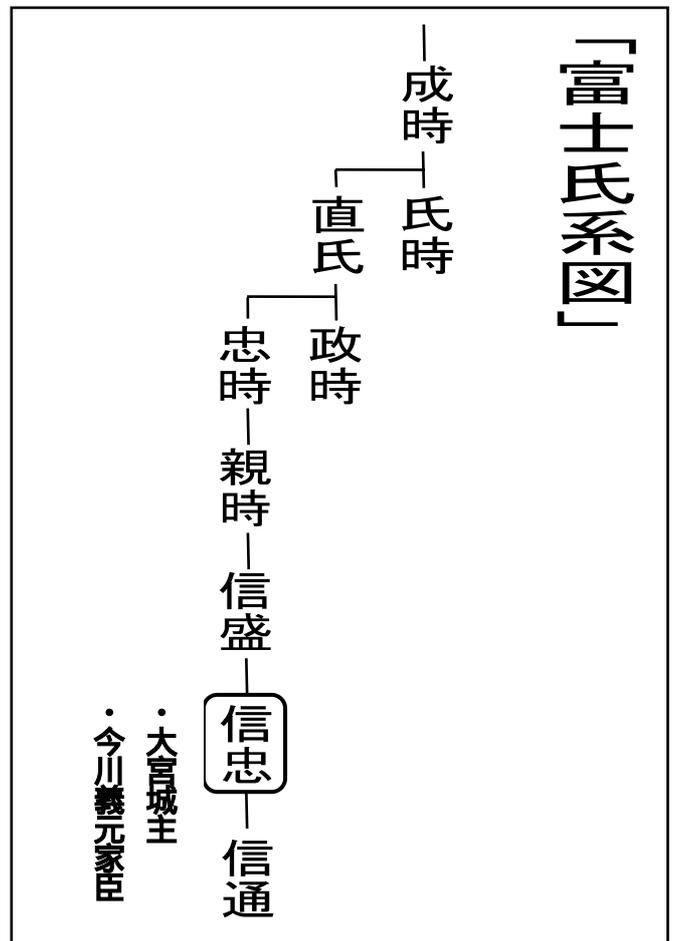
富士信忠は、どんな人なの？

富士氏は、もともと浅間大社の大宮司でした。しかし、戦国時代になると、浅間大社を守るため、武士としての面も持つようになりました。そして、館に堀や土塁を築き、大宮城に作り変えました。

富士信忠は、自分の力だけでは、武田氏や北条氏に對抗できないので、今川義元の家臣となつて、大宮の地、浅間大社を守ろうとしました。

桶狭間の戦いで義元が亡くなると、武田信玄は、駿河の国に攻めてきました。信玄は、「大宮を制する者が、駿河を制する」と、三回にわたって、大宮城を攻めました。富士信忠は、1万石あまりの大名でしたが、よく信玄と戦いました。しかし、最後には信玄に降伏して、武士はやめ、元の大宮司になりました。

富士氏が、いつごろ大宮に住みだしたのかよくわかっていません。15世紀の古文書に富士長永と名前が書かれています。これによって、室町時代には、富士氏がいたことがわかります。それより前の富士氏については、なぞに包まれています。はやく、新しい発見があるといいですね。



ひみつ4

大宮城はどうして今はないの？

天正10年(1582)大宮城は、焼け落ちてしまいました。大宮城を守っていた武田軍は、織田軍との戦いに敗れ、大宮から甲斐(今の山梨県)に引き上げました。そのとき、織田と同盟していた北条氏によって、大宮城も浅間大社も焼かれてしまいました。

それ以後、大宮城は、再建されることはありませんでした。なぜでしょう？それは、織田信長の後、徳川家康が日本を1つにまとめ、戦国時代が終わったからです。戦争はなくなったので、戦いのためのお城は、作る必要がなくなりました。

家康は、征夷大將軍になり、慶長8年(1603)江戸に幕府を開きました。その後、「1国1城令」により、1国に1つのお城を残し、その他のお城はこわすという法律を作りました。ますます、大宮城再建の必要が、なくなりました。大宮城のあとは、今、大宮小学校になっています。

大宮城年表

年	できごと
15世紀	富士氏、大宮小学校あたりに館をたて、大宮の地を支配する。
戦国時代	富士氏、館に堀や土塁を作り、大宮城に改築する。
1561年 (永禄4年)	富士信忠、大宮城の城代となる。
1568年 (永禄11年)	12月9日武田軍、大宮城を攻める。 富士信忠、北条氏の支援を受け、城を守る。
1569年 (永禄12年)	2月1日武田軍の穴山信君が大宮城を攻めるが、富士信忠これを守る。
"	6月23日武田軍(信玄本隊)大宮城を攻める。
"	7月3日富士信忠、大宮城を武田軍に明けわたす。 武田軍、大宮城をさらに強固に改築する。
1582年 (天正10年)	大宮城・浅間大社焼け落ちる。(武田軍が織田軍に敗れたことによる)

まめ知識

大宮城にカイロがあった！？

ありました。戦国時代は、カイロとはいわずに、温石おんじやくといいました。字のとおり火鉢ひばちで石を温め、布にくるみ、着物の中に入れました。

下の写真を見てください。大宮城からでてきた温石です。上のほうに丸いあなが開いていますね。何のためでしょう？これは、熱い石でやけどをしないための工夫くふうです。火ばしを温石のあなに引っかけて、手元に引き寄せ、布にくるみました。こうすると、やけどをしないで済みます。なかなかいいアイデアですね。

大宮城から出てきた温石の種類は、滑石かっせきといえます。滑石は、とてもやわらかく、あなもかんたんに開きます。

戦国時代は、今より寒かったのかな？夜、敵が攻めてこないように温石をふところに入れて見回りをしたのかな？想像するとわくわくしますね。

大宮城のあとからは、温石以外にもお金・陶磁器とうじき・すずりなどたくさん出土品しゅつどひんがあります。当時の富士氏は、これらのものを使えるほど力があつたことがわかります。

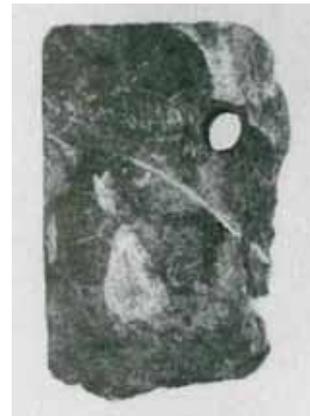
ことばの説明

火鉢・・・炭すみを使って、へやを温める器具。今のストーブと同じはたらきをします。

火ばし・・・鉄で作られたはし。炭を足したり、炭に灰はいをかぶせたりして、火の強さを調節した。

滑石・・・マグネシウムとケイ酸塩さんえんからできている岩石。つめできずをつけられるくらいやわらかい。

陶磁器・・・土をねって固め焼いて作ったもの。日本と中国両方のものが大宮城からは、発見されました。



温石



大宮小学校運動場（一の郭）



大宮小学校校舎（二の郭）



長屋門 江戸時代のものを移築^{いちく}（蔵屋敷郭）



蔵屋敷稲荷（蔵屋敷郭）

『第7号・大宮城のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『大宮城と富士氏展』 富士宮市郷土資料館 / 市教育委員会富士山文化課 2000
- 2 『元富士大宮司館跡』 富士宮市教育委員会 / きうちいんさつ 2000
- 3 『大宮城発掘詳報 1～9』 小岱史芳 / 岳南朝日 1998
- 4 『静岡県史 資料編 6 中世』 静岡県 / ぎょうせい 1992
- 5 『富士宮歴史散歩』 遠藤秀男 / 緑星社 1980
- 6 『富士山をめぐる郷土の歴史』 遠藤秀男 / 上井出中学校 1965
- 7 『富士山信仰遺跡展』 富士宮市郷土資料館 / 市教育委員会富士山文化課 2003
- 8 『史話と伝説 富士郡』 松尾書店編 / 松尾書店 1958
- 9 『中世の伊豆・駿河・遠江』 小野正敏編 / 高志書院 2005
- 10 『古城 第5 1号』 川村晃弘編 / 静岡古城研究会 2006

